

教科	国語	科目	国語総合	単位数	5
学年	1年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	必修

1. 学習の目標・概要

自己形成や他者との交流に必要な国語の能力を育成する。
 社会人として必要とされる言語能力の基礎を確実に育成する。

2. 使用教材

（現古共通）①『国語総合』（第一学習社）②『国語総合 学習課題集』③『新国語総合ガイド』
 （現代文）④『核心漢字 2500＋語彙 1000』⑤『3ステップオリジナル問題集 基礎現代文』
 （古典）⑥『体系古典文法』⑦『体系古典文法 学習ノート』⑧『体系漢文』⑨『体系漢文 学習ノート』
 ⑩『核心古文単語 351』⑪『3ステップオリジナル問題集 基礎古典（古文・漢文）』

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当 ¹⁾ 時数	考查範囲
1 学 期	4月	（現）随想「驚くという才能」 評論「水の東西」	15	中間 考 査 期 末 考 査
	5月	（古）説話「児のそら寝」（宇治拾遺物語） （現）小説「羅生門」	20	
	6月	（古）説話「絵仏師良秀」（宇治拾遺物語）	10	
	7月	（漢）「訓読に親しむ一・二・三」	5	
2 学 期	8月	（現）評論『「文化」としての科学」 詩「一つのメルヘン」「自分の感受性くらい」	15	中間 考 査 期 末 考 査
	9月	（古）「かぐや姫の嘆き」（竹取物語）「芥川」（伊勢物語） （漢）「漁夫之利」（戦国策）	20	
	10月	（現）小説「夢十夜」 評論「ネットが崩す公私の境」 （古）「筒井筒」（伊勢物語）	20	
	11月	「九月二十日のころ」（徒然草）	15	
	12月	（漢）「完璧」（十八史略）	5	
3 学 期	1月	（現）随想「交換は楽しい」 （古）「門出」（土佐日記）	20	中間 考 査 期 末 考 査
	2月	（漢）詩文 （現）「デザインの本意」「その子二十」「こころの帆」	20	
	3月	（古）「万葉集・古今和歌集・新古今和歌集」 （漢）「論語」	10	

計 175 時数

4. 評価の観点・趣旨および方法

以下の①～④の観点から総合評価する。
 ①定期考査（1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・3学期中間・3学期期末）②出席状況（欠課・遅刻・早退の数）③授業態度（教材準備・発問評価・積極性等）④家庭学習状況等（課題提出・小テスト・ノート等）

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

現代文：分かりにくい語句は辞書で調べ、語彙を増やす。文章を読んだら、どのような内容の文章なのかを考える習慣を持つこと。文章を読んで考えたことを、自分の言葉でまとめ、表現する力をつけること。
 古典（古文）：予習を前提とした授業を行う。まずは、丁寧なノートを作ることを習慣にする。語句や文法といった知識を定着させるため、復習の時間を十分にとること。
 古典（漢文）：音読に慣れること。返り点や書き下し文などの基礎を固め、句形を覚える。

教科	地理歴史	科目	世界史A		単位数	2
学年	1年	学科	普通科	履修対象	1年普通科必修	

1. 学習の目標・概要

世界の歴史をわが国の歴史と関連づけながら理解し、国際社会で主体的に生きていく力を養う。

2. 使用教材

教科書：新版世界史A（実教出版）

副教材：アカデミア世界史（浜島書店）・ゼミナール世界史（浜島書店）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学期	4月	人類の誕生と文明の発生	5時間	期末考查
	5月	東アジア世界の展開と展開～隋から元まで～	5時間	
	6月	南アジア世界の形成と展開	5時間	
	7月	ギリシア・ローマ文化	5時間	
2 学期	8月	イスラーム世界の成立とその経過	6時間	中間考查
	9月	ヨーロッパ世界の形成と展開	6時間	
	10月	大航海時代・絶対王政の時代・東西欧諸国の展開	6時間	
	11月	ヨーロッパ・アメリカの諸国名と世界の変動	6時間	期末考查
12月	アジア諸国の激動	6時間		
3 学期	1月	帝国主義・第一次世界大戦・ヴェルサイユ体制	7時間	期末考查
	2月	世界恐慌と第二次世界大戦	7時間	
	3月	冷戦のはじまりとその終結	6時間	

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

関心・意欲・態度：主体的かつ積極的な態度で、日々の学習活動に取り組むことができたか。

思考・判断：歴史を学ぶことにより、現在の国際社会の状況との関係を正しく考察できているか。

技能・表現：学習内容や資料等を適切にまとめることができていますか。

知識・理解：学習した知識を理解し、定着させることができたか。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

何よりも授業を大切にし、真摯な姿勢で取り組むこと。難解な語句、初めて聴く言葉を正しく知識として定着させるため、各自の工夫や努力を求めたい。

教科	地理歴史	科目	地理 A		単位数	2
学年	1年	学科	国際教養科	履修対象	1年国際教養科（必修）	

1. 学習の目標・概要

現在の世界に対する認識を広げ、身近な世界とのつながりを知る。
我々の生きてゆく地域や社会を広い視野でとらえ、よりよい生活、環境をつくりあげる。

2. 使用教材

教科書：基本地理 A（二宮） 現代地図帳(二宮)
副教材：最新地理図表 GEO（第一学習社）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	地球儀と地図・・・地球，時差，地図の歴史，図法	5時間	(中間) 時差・地形 図の読図
	5月	国と国の結びつく・・・国家と領域，日本の位置，世界の結びつき	5時間	
	6月	地形と私たちの暮らし・・・プレートと変動帯，河川地形，海岸地形	5時間	(期末) 大地形，小 地形
	7月	気候と私たちの暮らし・・・大気の流れ，ケッペンの気候区分	5時間	
2 学 期	8月	気候と私たちの暮らし・・・世界の気候	6時間	(中間) 世界の気候 帯と気候区
	9月	世界の農業・世界の工業	6時間	
	10 月	宗教と文化・言語民族と文化	6時間	(期末) 世界の農工 業と世界各 地の生活
		世界各地の生活・文化・・・中国・朝鮮半島・東南アジア	6時間	
	11 月	世界各地の生活・文化・・・南アジア・アフリカ・ヨーロッパ	6時間	(中間) 世界各地の 生活
12 月				
3 学 期	1月	世界各地の生活・文化・・・ロシア・アングロアメリカ・オセアニア	8時間	(期末) 地球的課題 と生活圏の 諸課題
	2月	地球的課題・・・人口問題，食糧問題，都市問題，エネルギー問題 環境問題	8時間	
	3月	生活圏の諸課題・・・地図とGISの利用，日本の自然災害	4時間	

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

①関心・意欲・態度・・・主体的かつ積極的な態度で，日々の学習活動に取り組むことができたか。
②思考・判断・・・学習内容の意味を正しく理解し，現代の世界の諸状況の背景を理解できたか。
③技能・表現・・・学習内容や自己の意見を，場面に応じ的確に表現できたか。
④知識・理解・・・学習した知識を理解し，定着させることができたか。
以上の評価の観点に従って，出欠・授業態度・課題の達成度・課題の提出度・定期考査の得点を総合的に加味して，評価を行う。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

配布プリントやノートした学習内容を反復学習することによって完璧に暗記し，基礎知識を習得して，中間試験・期末試験に備えるようにする。

教科	公民	科目	現代社会		単位数	2
学年	1年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	1年普通科・国際教養科 必修	

1. 学習の目標・概要

現代の社会と人間についての理解を深め、現代社会の基本的な問題について主体的に考える力を養う。

2. 使用教材

教科書：高校現代社会（実教出版）
副教材：フォーラム現代社会（とうほう） 4ステージ演習ノート現代社会（数研出版）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	現代の国家と民主政治	5時間	中間 考 査 期 末 考 査
	5月	平和主義	5時間	
	6月	基本的人権～自由権・社会権・参政権～	5時間	
	7月	日本の立法・行政・司法 日本の地方自治	5時間	
2 学 期	8月	国際政治の動向	6時間	中間 考 査 期 末 考 査
	9月	現代の経済社会と政府の役割	6時間	
	10月	経済活動のあり方と国民福祉	6時間	
	11月	国際経済の動向	6時間	
	12月	地球環境問題	6時間	
3 学 期	1月	科学技術の発達と生命	8時間	期 末 考 査
	2月	青年期と自己形成	8時間	
	3月	他者と共に生きる倫理	4時間	

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

関心・意欲・態度：主体的かつ積極的な態度で、日々の学習活動に取り組むことができたか。
思考・判断：現代社会の基本的な問題について、主体的に考え判断することができたか。
技能・表現：学習内容や資料等を適切にまとめ、表現することができたか。
知識・理解：学習した知識を理解し、定着させることができたか。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

何よりも授業を大切にし、真摯な姿勢で取り組むこと。

教科	数学	科目	数学 I	単位数	3
学年	1年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	1年普通科・国際教養科必修

1. 学習の目標・概要

高等学校数学の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。数学の知識と技能を的確に活用する能力を伸ばし、数学的な見方や考え方を認識し、高等数学の土台作りをする。

2. 使用教材

数学 I Advanced (東京書籍)
PRIME 数学 I +A (東京書籍)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	1章「数と式」 式の計算 実数	25	中間 考 査
	5月	2章「集合と論証」 1次不等式 集合 命題と論証		
	6月	3章「2次関数」 関数とグラフ 2次方程式	25	期 末 考 査
2 学 期	7月	4章「図形と計量」 2次不等式 鋭角の三角比 三角比の拡張 三角形への応用	35	中 間 考 査
	8月			
	9月			
	10月	5章「データと分析」 データの整理と分析 データの相関	20	期 末 考 査
11月				
3 学 期	12月			
	1月			
	2月			
	3月			

計 105

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考査は①と②の2回実施し、定期的に小テストを行う。定期考査の得点、小テストの得点、提出物から総合的に成績をつける。また、授業態度・出欠席・追試結果・補習態度などを加味する。年間評定は、各学期の成績を基準として総合的に判断する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

数学の力を定着させるためには、「復習と演習」が特に重要です。すぐに解答を見ずにまずは自分の力で考え、解答を作ることが大切です。また、小テストで短い範囲の基礎的内容を十分に理解しておくことが定期テスト更には数学の力につながります。

教科	数学	科目	数学A	単位数	2
学年	1年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	1年普通科・国際教養科必修

1. 学習の目標・概要

高等学校数学の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。数学の知識と技能を的確に活用する能力を伸ばし、数学的な見方や考え方を認識し、高等数学の土台作りをする。

2. 使用教材

数学A Advanced (東京書籍)
PRIME 数学 I + A (東京書籍)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月			
	5月			
	6月			
2 学 期	7月			
	8月			
	9月			
	10月			
	11月	1章「場合の数と確率」場合の数	20	期末考查
3 学 期	12月	確率とその基本性質 いろいろな確率		
	1月	2章「整数の性質」 約数と倍数	25	中間考查
	2月	ユークリッドの互除法と不定方程式 整数の性質の活用		
	3月	3章「図形の性質」 三角形の性質 円の性質 作図 空間図形	25	期末考查

計 70

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考查は①と②の2回実施し、定期的に小テストを行う。定期考查の得点、小テストの得点、提出物から総合的に成績をつける。また、授業態度・出欠席・追試結果・補習態度などを加味する。年間評定は、各学期の成績を基準として総合的に判断する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

数学の力を定着させるためには、「復習と演習」が特に重要です。すぐに解答を見ずにまずは自分の力で考え、解答を作ることが大切です。また、小テストで短い範囲の基礎的内容を十分に理解しておくことが定期テスト更には数学の力につながります。

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2
学年	1年	学科	普通科	履修対象	1年普通科(必修)

1. 学習の目標・概要

- ・化学の学習を通し科学的なものの見方や考え方を身に付ける。
- ・実験、観察を通して科学的に探究する能力を身に付ける。
- ・化学を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身に付ける。

2. 使用教材

(化学基礎)
 新版 化学基礎 新訂版(実教出版)
 アクセスノート化学基礎改訂版(実教出版)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時間数	考査範囲
1 学 期	4月	物質の構成	(13)	1学期期末考査 物質の構成 物質の構成粒子
	5月	物質の構成粒子	(12)	
	6月		25	
2 学 期	7月	粒子の結合 物質と化学反応式	(15) (15) 30	2学期期末考査 粒子の結合 物質と化学反応式
	8月			
	9月			
	10月			
	11月			
3 学 期	12月	酸と塩基の反応 酸化還元反応	(8) (7) 15	3学期期末考査 酸と塩基の反応 酸化還元反応
	1月			
	2月			
	3月			

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考査、実験レポートから総合的に評価する。
 ただし、授業態度が著しく悪い者については減点対象とする。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・授業での様子・考査の到達度等、理解の度合によって授業進度を変更する場合もある。
- ・授業に遅れたり休んだりしないこと。
- ・提出物の期限を守ること。
- ・実験レポートをきちんと提出すること。
- ・英数国の予習復習で手一杯になります。理科はとにかく授業に集中することを心がける。

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2
学年	1年	学科	普通科	履修対象	1年 普通科（必修）

1. 学習の目標・概要

- ・生物の学習を通し科学的なものの見方や考え方を身に付ける。
- ・実験、観察を通して科学的に探究する能力を身に付ける。
- ・生物を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身に付ける。

2. 使用教材

（生物基礎）
改訂版 生物基礎 BIOLOGY（数研出版）
ニューステップアップ生物基礎 BIOLOGY（東京書籍）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当 時数	考查範囲	
1 学 期	4月	生物の特徴	(10)	1学期中間考査	生物の特徴
	5月	生物の多様性と共通性	(10)		
	6月	生命活動とエネルギー			
	7月	遺伝子とそのはたらき 生物と遺伝子 遺伝情報の分配 遺伝情報とタンパク質の合成		1学期期末考査	遺伝子と そのはたらき
小計 20					
2 学 期	8月	生物の体内環境の維持	(18)	2学期中間考査	生物の体内環境
	9月	体内環境	(12)		
	10月	体内環境の調節			
	11月	免疫		2学期期末考査	植生の 多様性と分布
	12月	生物の多様性と生態系 植生の多様性と分布	小計 30		
3 学 期	1月	気候とバイオーム	(10)	3学期期末考査	生態系とその保全
	2月	生態系とその保全	(10)		
	3月		小計 20		

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考査、実験レポートから総合的に評価する。
ただし、授業態度が著しく悪い者については減点対象とする。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・授業での様子・考査の到達度等、理解の度合によって授業進度を変更する場合もある。
- ・授業に遅れたり休んだりしないこと。
- ・提出物の期限を守ること。
- ・実験レポートをきちんと提出すること。
- ・英数国の予習復習で手一杯になります。理科はとにかく授業に集中することを心がける。

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2
学年	1年	学科	国際教養科	履修対象	1年 国際教養科（必修）

1. 学習の目標・概要

- ・実験、観察を通して科学的に探究する能力を身に付ける。
- ・生物を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身に付ける。

2. 使用教材

(生物基礎)

改訂版 生物基礎 BIOLOGY（数研出版）

改訂 ニューステップアップ 生物基礎 BIOLOGUY（東京書籍）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当 時数	考查範囲	
1 学 期	4月	生物の特徴	(10)	1学期中間考查	生物の特徴
	5月	生物の多様性と共通性	(10)		
	6月	生命活動とエネルギー			
	7月	遺伝子とそのはたらき 生物と遺伝子 遺伝情報の分配 遺伝情報とタンパク質の合成		1学期期末考查	遺伝子と そのはたらき
小計 20					
2 学 期	8月	生物の体内環境の維持	(18)	2学期中間考查	生物の体内環境
	9月	体内環境	(12)		
	10月	体内環境の調節			
	11月	免疫		2学期期末考查	植生の 多様性と分布
	12月	生物の多様性と生態系 植生の多様性と分布	小計 30		
3 学 期	1月	気候とバイオーム	(10)	3学期期末考查	生態系とその保全
	2月	生態系とその保全	(10)		
	3月		小計 20		

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考查、実験レポートから総合的に評価する。
ただし、授業態度が著しく悪い者については減点対象とする。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・授業での様子・考查の到達度等、理解の具合によって授業進度を変更する場合もある。
- ・授業に遅れたり休んだりしないこと。
- ・提出物の期限を守ること。
- ・実験レポートをきちんと提出すること。
- ・英数国の予習復習で手一杯になります。理科はとにかく授業に集中することを心がける。

教科	保健体育	科目	体育	単位数	3
学年	1年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	普通科・国際教養科必修

1. 学習の目標・概要

各種の運動を合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

2. 使用教材

なし

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学期	4月	オリエンテーション 体力づくり運動 スポーツテスト	(10)	
	5月	球技(男子:ソフトボール 女子①:バレーボール) 器械体操(女子②:マット運動) CM練習	(5) (5)	
	6月	球技(男子:ソフトボール 女子①:バレーボール) 器械体操(女子②:マット運動)	(5)	
	7月	選択Ⅰ 水泳(クロール、平泳ぎ) or ダンス ※体育理論2時間	(3) (2) 30	
2 学期	8月	選択Ⅰ 水泳(クロール、平泳ぎ) or ダンス	(9)	
	9月	陸上(長距離走)	(6)	
	10月	球技(男子:サッカー 女子②:バレーボール) 器械体操(女子①:マット運動)	(10)	
	11月	選択Ⅰ(アルティメット、インディアカ、ソフトバレー) CM練習	(8) (4)	
3 学期	12月	球技(バドミントン、卓球、バスケットボール) ※体育理論2時間	(6) (2) 45	
	1月	球技(バドミントン、卓球、バスケットボール)	(9)	
	2月	球技(バドミントン、卓球、バスケットボール)	(9)	
	3月	球技(バドミントン、卓球、バスケットボール) ※体育理論2時間	(10) (2) 30	

計105時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

出欠席、授業態度、意欲、技能、集団での行動、協力、服装等で総合的に評価する

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

評価の観点を理解し、安全に気を配り意欲的に授業に取り組む。

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1
学年	1年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	普通科・国際教養科必修

1. 学習の目標・概要

個人および社会生活における健康・安全について理解を深める様にし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2. 使用教材

大修館書店 現代高等保健体育・同ノート

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	私たちの健康のすがた 健康のとれえ方	(1) (2)	期末 考 査
	5月	健康と意志決定・行動選択 健康に関する環境づくり	(2) (2)	
	6月	生活習慣病	(2)	
	7月	生活習慣病	(1)	
			10	
2 学 期	7月	食事と健康 運動と健康	(1) (1)	
	8月	休養・睡眠と健康	(1)	
	9月	喫煙と健康 飲酒と健康	(2) (2)	
	10月	薬物乱用と健康 現代の感染症	(2) (2)	
	11月	感染症の予防	(2)	
	12月	性感染症・エイズとその予防	(2)	
		15		
3 学 期	1月	欲求と適応機制 心身の相関とストレス	(2) (2)	
	2月	ストレスへの対処 心の健康と自己実現	(1) (1)	
	3月	応急手当の意義とその基本 心肺蘇生法	(2)	
		日常的な応急手当	(2)	
		10		

計 35 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期試験、出欠席、ノート・プリントの提出、授業態度、意欲、を加味して総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

評価の観点を理解し、提出物の期限を守り意欲的に授業に取り組む。

教科	芸術	科目	音楽 I	単位数	2
学年	1年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	普通科・国際教養科音楽選択者

1. 学習の目標・概要

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

2. 使用教材

教科書：高校生の音楽1 [音楽之友社]
副教材：MUSIC NOTE[啓隆社]、愛唱歌集[教育芸術社]

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	表現・鑑賞：飯田風越高校 校歌、愛唱歌集【実技テスト・筆記テスト】	8	
	5月	表現・鑑賞：ドイツリート「野ばら」【実技テスト・筆記テスト】	8	
	6月	鑑賞：ミュージカル【筆記テスト】	4	
	7月			
2 学 期	8月	表現・鑑賞：イタリア歌曲「カロミオベン」【実技テスト・筆記テスト】	10	
	9月			
	10月	器楽・鑑賞：リコーダー「シチリアーナ」【実技テスト・筆記テスト】	10	
	11月			
	12月	器楽 キーボード【筆記テスト】	10	
3 学 期	1月	理論：楽典【筆記テスト】	10	
	2月	鑑賞：オペラ【筆記テスト】	10	
	3月			

計 70時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

①関心・意欲・態度：毎授業ごとの取り組みの状況、遅刻・早退・欠席の状況
②芸術的な感受や表現の工夫：感性をはたらかせ、創意工夫を持って豊かな表現活動を行うことができたか
創造的な表現の技能：上手い下手ではなく、よりよい表現方法を試行錯誤し、創意工夫することができたか
鑑賞の能力：各種の鑑賞活動を通して、その良さや美しさを感じ取ることができたか
・①は毎授業ごとの取り組みが重視されるので、授業を受ける態度をしっかりとし、遅刻・早退・欠課をしないように留意すること。②については実技・ペーパーテストで評価します

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

遅刻・欠課をせず、意欲的・積極的な態度を望みます

教科	美術	科目	美術 I	単位数	2
学年	1 年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	普通・国際教養科美術選択者

1. 学習の目標・概要

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

2. 使用教材

高校生の美術 1（日本文教出版）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	・オリエンテーション	1	
		・「絵画の基礎・デッサンとトーン」	2	
	5月	・「植物の生命を感じて表す」（絵画）	10	
	6月	・「思いを抽象彫刻で表す」（彫刻）	10	
	7月			
2 学 期	8月	↓		
	9月	・「オリジナル文様」（デザイン）	22	
	10月	↓		
	11月	「私の宝箱」（工芸）	22	
		↓		
3 学 期	12月			
	1月	・「日本や世界の美術」（鑑賞）	2	
	2月	・まとめ	1	
	3月			

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

作品、提出物、発言、授業態度、自己評価、準備・片づけ、出席の状況等総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

・作品を期限までに仕上げ、提出すること。・必要な資料、材料等の準備は積極的に行うこと。・授業後の片づけ、物品の管理はきちんとすること。・鑑賞時等には自分の考え方や感じ方を積極的に述べるよう努めること。・幅広く美術に関心を持ち、感性を働かせて、美しく創造的な表現や材料・用具を生かす工夫、技能の向上、自然や人間、文化などの理解等に努め、積極的・意欲的に美術の活動に取り組んで下さい。

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2
学年	1年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	普通科・国際教養科選択者

1. 学習の目標・概要

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

2. 使用教材

書 I (光村図書)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時間数	考查範囲	
1 学期	4月	漢字の書「書写から書道へ」	(4)		
	5月	漢字の書「楷書 唐の四大家」	(6)		
	6月	漢字の書「楷書 唐の四大家」	(5)		
	7月	漢字の書「楷書 北魏の書」	(5)		
			20		
2 学期	8月	漢字の書「篆刻～姓名印の制作～」	(4)		
	9月	漢字の書「篆刻～姓名印の制作～」	(4)		
	10月	漢字の書「行書 蘭亭序 争坐位文稿」	(5)		
	11月	漢字の書「行書 蜀素帖 風信帖」	(6)		
	12月	漢字の書「草書 隸書 篆書」	(6)		
			30		
3 学期	1月	仮名の書「蓬莱切 高野切第三種」	(8)		
	2月	漢字仮名交じりの書「創作作品」	(8)		
	3月	まとめ	(4)		
			20		

計70時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

「書表現の構想と工夫」「書への関心・意欲・態度」「創造的な書表現の技能・鑑賞の能力」を観点に、授業中の取り組み・作品・制作記録などから総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

小中学校までの国語科「書写」を踏まえ、視覚と触覚、また書くことと刻ることが合体した筆触を実践的に理解し、身につけていくことで書への理解と興味が向上していく。系統的・段階的に学習を進めていくので休まないように気を付けること。

教科	外国語	科目	コミュニケーション英語 I		単位数	3
学年	1年	学科	普通科	履修対象	全員	

1. 学習の目標・概要

<ul style="list-style-type: none"> ・精読、音読、多読、暗唱、リスニング、グループワーク、short essayなどで、総合的に読む・話す・聴く・書く力の英語の4技能の基礎を養う。反復学習とアウトプットによって高校英語の基礎となる単語力を身につける。 ・英文法への理解を深め、演習を通して正確な読解力、適切な表現力を身につける。

2. 使用教材

<p>Flex English Communication I (増進堂) 予習ノート、ワークブック、音声教材、英和辞典アプリ、随時ワークシート、リスニング教材 Listening Trial I(文英堂)、サイドリーダーなどを利用</p>

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	Lesson 1: Behind Kumamon	(10)	中間 : Lesson1,2
	5月	Lesson 2: Hacking Your Brain	(10)	
	6月	Lesson 3: It's Always Sunny in Space!	(10)	期末 : Lesson3,4
	7月	Lesson 4: Malala: Fighting for Women's Rights	(8)	
2 学 期	8月	Lesson 5: Mount Fuji	(6)	中間 : Lesson5,6
	9月	Lesson 6 Donald Keene and His	(9)	
	10月	Love of Japan	(10)	期末 : Lesson7,8,9
	11月	Lesson 7: Virtual Water	(10)	
	12月	Lesson 8: Wearable Robots May	(10)	
3 学 期		Lesson 9: Biomimicry – Inspired by Nature		期末 : Lesson 10 Optional 1
	1月	Lesson 10: "His Holiness the 14th Dalai Lama"	(11)	
	2月	Optional 1: Emma's Saturday 1		
	3月		(11)	

計 105 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

<ul style="list-style-type: none"> ・ 考查の結果のみならず、小テスト、提出物の提出状況、副読本への取り組み、などから総合的に評価する。 ・ 提出物の提出遅れや未提出は減点の対象となる。また、授業内で自分の考えを書いたり、話したりするアウトプット型の言語活動や授業への姿勢も評価の対象とする。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

語学の学習で一番大切なこと、それは「継続は力」ということです。

英語が大切なことはわかっているが、日々の学習を続けている中で、進歩が実感できず、投げ出したくなる場合があります。そんなときでも、あきらめず歩き続けていると、ふいに見晴らしのいい場所にたどりつき、いつの間にこんなに遠くまで来たのだろうと驚く瞬間が必ず訪れます。そこで元気をもらってまた地道な歩みを続ける・・・語学の学習はその繰り返しです。

具体的には、家庭での予習・復習、そして授業時間の集中が大切です。高校英語は家庭学習なしには進めません。1年生の最初に、しっかりと家庭学習の習慣をつけてください。辞書を引き、文法書を読み、単語を学び、副読本を読み、といった一つ一つの地道な作業が皆さんの来年、再来年の英語力につながります。着実な努力が明日の自分への投資となります。

また、英語での対話や発表等は、積極的に行いましょう。

教科	外国語	科目	英語表現 I	単位数	2
学年	1年	学科	普通科	履修対象	全員

1. 学習の目標・概要

・自分の考えを適切に表現するために必要な英文法の知識を身につけ、読解力や表現力の向上につなげる。
 ・短い英文を書いたり、それを使ってペアで言語活動を行うことで、身近なことを相手に英語で伝えられる力を養う。

2. 使用教材

MAIN STREAM ENGLISH EXPRESSION I (増進堂) ワークブック、総合英語 Evergreen、English Grammar 27、他、随時ワークシートや補助教材などを利用

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	Lesson 1 Nice to meet you	(6)	1 学期中間考查
	5月	Lesson 2 What kind of music do You like?	(5)	
		Lesson 3 My Treasure	(5)	
	6月	Lesson 4 This Coming Weekend	(5)	
2 学 期	8月	Lesson 5 Subjects I'm taking	(6)	2 学期中間考查
	9月	Lesson 6 Are you in a Club?	(6)	
	10月	Lesson 7 The School Festival is Soon.	(7)	
		Lesson 8 Getting to Asahi Senior High School	(6)	
	11月	Lesson 9 The Store I Often Go to	(6)	2 学期期末考查
3 学 期	1月	Lesson 10 I Feel Sick	(6)	3 学期期末考查
	2月	Lesson 11 Volunteer Activities	(5)	
		Lesson 12 Japanese Food	(5)	
	3月			

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

考查の結果のみならず、予習復習を含めた授業への取り組みの様子、提出物の取り組み状況を総合的に判断して評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

ノートを用意して、予習をノートにやってくるようにしてください。書き取りよりも音読して覚えた方が効率的で、実際の使用場面で役立ちます。英文法は基本的な原則を正しく理解できれば「暗記」ではなく「理解」する科目になります。英語話者のものの考え方、感じ方に即した論理の筋道の一つ一つ理解していきましょう。使用する文法参考書は図や絵が多く使用されていますので、理解の手助けになります。また、文法参考書は読み物として使用すると負担無く文法を学ぶことができます。

教科	英語	科目	総合英語	単位数	5
学年	1年	学科	国際教養科	履修対象	全員

1. 学習の目標・概要

- ・精読・音読・多読・暗唱・リスニング・グループワーク・short essayなどで、総合的に読む・話す・聴く・書く力の英語の4技能の基礎を養う。反復学習とアウトプットによって高校英語の基礎となる単語力を身につける。
- ・英文法への理解を深め、演習を通して正確な読解力、適切な表現力を身につける。

2. 使用教材

Flex English Communication I (増進堂)、予習ノート、ワークブック、音声教材、英和辞典アプリ、リスニング教材 Listening Trial I (文英堂)、サイドリーダーなどを利用	MAIN STREAM ENGLISH EXPRESSION I (増進堂) ワークブック、総合英語 Evergreen、English Grammar 27、他、随時ワークシートや補助教材などを利用
---	--

3. 学習の計画

	月	学習内容				考査 範囲
		Flex English Communication I	配当時数	Empower English Expression I	配当時数	
1 学期	4月	Lesson 1: Behind Kumamon	(10)	Lesson 1 Nice to meet you	(6)	1学期 中間考査 1学期 期末考査
	5月	Lesson 2: Hacking Your Brain	(10)	Lesson 2 What kind of music do You like?	(6)	
		Lesson 3: It's Always Sunny in Space!	(10)	Lesson 3 My Treasure	(4)	
	6月	Lesson 4: Malala: Fighting for Women's Rights	(8)	Lesson 4 This Coming Weekend	(5)	
2 学期	7月					
	8月	Lesson 5: Mount Fuji	(4)	Lesson 5 Subjects I'm taking	(4)	2学期 中間考査
	9月	Lesson 6 Donald Keene and His Love of Japan	(10)	Lesson 6 Are you in a Club?	(4)	
	10月		(10)	Lesson 7 The School Festival is Soon.	(10)	2学期 期末考査
	11月	Lesson 7: Virtual Water	(10)	Lesson 8 Getting to Asahi Senior High School	(10)	
12月	Lesson 8: Wearable Robots May Change Our Life	(10)	Lesson 9 The Store I Often Go to	(4)		
3 学期	1月	Lesson 9: Biomimicry – Inspired by Nature	(10)			3学期 期末考査
	2月	Lesson 10: "His Holiness the 14 th Dalai Lama"	(8)	Lesson 10 I Feel Sick	(7)	
		Optional 1: Emma's Saturday 1	(7)	Lesson 11 Volunteer Activities	(7)	
	3月			Lesson 12 Japanese Food	(4)	

計 175 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

- ・考査の結果のみならず、小テスト、提出物の提出状況、副読本への取り組み、などから総合的に判断する。
- ・提出物の提出遅れや未提出は減点の対象となる。また、授業内で自分の考えを書いたり、話したりするアウトプットの活動や姿勢も評価の対象とする。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- 語学の学習で一番大切なこと、それは「継続は力」ということです。
- 具体的には、家庭での予習・復習、そして授業時間の集中が大切です。高校英語は家庭学習なしには進めません。1年生の最初に、しっかりと家庭学習の習慣をつけてください。辞書を引き、文法書

を読み、単語を学び、副読本を読み、といった一つ一つの地道な作業が皆さんの来年、再来年の英語力につながります。志を高くもって、日々の課題に取り組みましょう。また、英語での対話や発表等は、積極的に行いましょう。文法は「暗記」の前に「理解」しましょう。そしてコミュニケーションツールとして、読むとき、書くとき、話すとき、色々な場面で使って身につけましょう。英語を通じた知的な刺激にアンテナを高くしていきましょう。

教科	英語	科目	異文化理解	単位数	2
学年	1年	学科	国際教養科	履修対象	全員

1. 学習の目標・概要

<p>In order to improve your presentation skills, what you need is...</p> <p>(プレゼンテーション力を高めるために必要なことは)</p> <p>①To understand basic English sentence patterns to communicate in English. (英語での意思伝達のための基本的な英文の仕組みを学ぶこと)</p> <p>②To acquire research skills. (リサーチスキル:調査研究する力をつけること)</p> <p>③To be able to speak clearly and confidently in front of a big audience. (はっきりと自信を持って大勢の人の前で自分を表現できるようになること)</p>
--

2. 使用教材

<p>自作教材、ファイル、 スーパーアンカー英和・和英辞典 (学研) などの辞典、その他授業で指定のもの</p>
--

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	Self-introduction, Different Countries	(6)	1 学期中間 1 学期期末 1 学期期末 1 学期期末
	5月	Naming Customs and Greetings	(7)	
	6月	Representing Different Lifestyles	(7)	
	7月	International Contribution	(6)	
2 学 期	8月	International Contribution	(3)	2 学期中間 2 学期期末 2 学期期末 2 学期期末
	9月	Debate Practice	(7)	
	10月	Debate Practice	(7)	
	11月	United Nation Problem	(7)	
3 学 期	12月	United Nation Problem	(7)	3 学期中間 3 学期期末 3 学期期末
	1月	Researching Our Hometowns	(7)	
	2月	Presenting Our Hometowns	(6)	
	3月			

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

<p>以下の4つの観点に照らし合わせて、学習目標への到達度を総合的に評価する。</p> <p>① 関心(interest)・意欲態度(enthusiasm, stamp points) = 出欠(attendance)、課題(assignment) (提出期限・達成度)</p> <p>② 思考(thinking)・判断(clear judgment or opinion) = Interview test</p> <p>③ 技能(skill)・表現(expression) = Video shooting、Presentation test</p> <p>④ 知識(knowledge)・理解(understanding) = Written test、Listening Test、Interview test</p>

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

<p>英語を使って多種多様なバックグラウンドを持った人達と意思疎通をはかるためには、自分自身や自分の国の文化について理解を深めることと、自分と異なる文化や考えを理解することとの両方の視点が必要です。インターネットや本などを使った調査によってさまざまな文化を理解し、知り得たことを自分の言葉、主に英語、でまとめて表現するプレゼンテーション能力を養っていくことがこの科目の目標です。</p> <p>①間違えても構いません。積極的に発言しましょう。発言に与えられるスタンプポイントを評価に加えます。</p> <p>②課題が課されます。意欲的に課題に取り組み、課題は提出期限までに提出をしましょう。</p> <p>③コンピュータを使ったリサーチを通じて、ファイルを開く、タイピングをする、保存する、などのコンピュータの操作方法を覚えましょう。</p> <p>④異文化を楽しみながら学びましょう。</p>

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2
学年	1年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	全員

1. 学習の目標・概要

生活に関わる基礎的な知識や技術を学ぶことにより、生活的自立を目指すとともに、社会の一員としての自覚を養う。

2. 使用教材

教科書：家庭基礎～パートナーシップでつくる未来～（実教出版）

資料集：生活学N a v i 資料+成分表 2021（実教出版）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学期	4月	1-1 自分らしい生き方と家族 (1) 自分を見つめる (2) 自立した生き方	6	1学期 期末考查
	5月	(3) 共に生きる家族 (4) 家族に関する法律	8	
	6月	1-2 子どもとかかわる (1) 子どもを知る (2) 子どもの発達 (3) 子どもの生活 (4) 親になること (5) 子どもが育つ環境	6	
	7月	2-1 食生活をつくる (1) 私たちの食生活	5	2学期 中間考查
8月	(2) 日本の食卓の課題	3		
2 学期	9月	(3) 栄養と食品のかかわり、栄養素とからだの成分 炭水化物・脂質・たんぱく質・ミネラル・ビタミン	6	2学期 期末考查
	10月	・調理実習①	8	
	11月	(4) 食事の計画と調理 ・調理実習②	8	
	12月	(5) これからの食生活	8	
3 学期	12月	2-3 衣生活をつくる ・被服実習	6	3学期 期末考查
	1月	(1) 衣服の役割 (2) 被服素材 (3) 衣生活の管理	8	
	2月	1-3 高齢者とかかわる (1) 高齢者を知る (2) 高齢者福祉	6	
	3月	1-4 社会とかかわる (1) 社会福祉 (2) ボランティア 3-1 消費行動を考える (1) 社会の変化と消費行動	6	

計70時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考查の得点を基にして、提出物の状況・授業態度・出欠席の状況などを加味して、総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

授業に集中し、ノートをしっかり取る。ノート、プリントを中心に復習。提出物は必ず提出する。新聞その他により情報を収集し、常に社会の動向に目を向ける。学習したことを家で実践する。